

## &lt;全体分析&gt;

試験時間

100分

## 解答形式

大問Ⅰ～Ⅳはすべて客観式（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはマークシートを用いる）で、Ⅴの英作文は記述式。

## 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや難化・増加）※長文3題の総語数は2,625から2,376になった。

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

## 出題の特徴や昨年との変更点

- ・英文を素材とした長文問題の大問数は例年どおりⅠ～Ⅲの3題で、設問数は2025年度と同じく33となっている。英文はここ数年のものと同様に読みやすく、設問にも紛らわしい選択肢は少ない。
- ・2025年度以降、大問Ⅰ～Ⅳで共通のトピックを扱う問題が出題されており、今年度はすべて食料問題に関するものであった。
- ・大問Ⅳでは、過去3年と同様に、会話文形式の和文英訳問題が出題されず、大問Ⅲの英文に関する日本語で書かれた論評を読み、その2つに関する英語で書かれた内容一致形式の設問に答える問題が出題されている。
- ・大問Ⅴの自由英作文は、2012年度以来の形式を踏襲して、長文問題の内容に基づき、与えられたテーマについて論じるものである。これまでは指定されたトピックについての賛否を問う形式であったが、今年度は、従来型の問題に加え「食品ロスの問題に日本政府はどのように対処すべきか」という具体的解決策を問う問題が出題された。
- ・大問Ⅴでは、2024年度以降、英語の引用例はなくなり「著者名と出版年を記すこと」という指示が与えられている。2025年度と同様に、問題文で言及されている見解やことごとを取り上げる際には「問題文から丸写しするのではなく、自分の言葉で言い換えること」という指示がある。さらに今年度は、2025年度に姿を消した「問題文を直接引用する場合は、引用符 (quotation marks) を使うこと」という指示が復活し、新たに「具体例を挙げながら論じなさい」という指示も加えられた。

## その他トピックス

- ・2025年度には出題されなかった大問Ⅲのアクセント問題が復活した。
- ・2025年度と同様に、段落の要旨を問う設問は出題されていない。
- ・2022年度に出題されていた、英文の一部を発話した際、文脈上最も強く発音する単語を問う設問も出題されていない。

# 英語

## <大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「フードバンク推進派の主張」 (774 words)	空所補充 空所前後の文脈把握力が試されているが、全体に素直な設問が多く、正解は決めやすい。6・7・8は一括して5つの単語が提示され、それぞれの解答を選ぶ。	標準
II	読解総合	「フードバンク反対派の主張」 (699 words)	空所補充、内容一致 14・15・16は一括して5つの単語が提示され、それぞれの解答を選ぶ。21・22は、与えられた英文が、「Iの英文の筆者が賛成するか」「IIの英文の筆者が賛成するか」「両方の筆者が賛成するか」「どちらも賛成しないか」を推論する問題。それぞれの主張が明確なので判断しやすい。	標準
III	読解総合	「食品廃棄問題の実態と解決策」 (903 words)	空所補充、アクセント ほとんどの設問で文脈を読み取る力が試されている。25・26・27は一括して5つの単語が提示され、それぞれの解答を選ぶ。29の空所に入る数値を選ぶ問題は、前文と合わせて内容が正確に理解できるかがポイントとなる。	標準
IV	読解総合	「食品廃棄問題における消費者教育の重要性」	IIIの英文に対する日本語で書かれた論評を読み、それらについて英語で書かれた設問に答える問題。問われているのはIIIの英文とIVの和文の関係で、それぞれの文章を読んで情報を探す必要がある。消去法も有効な手段となるだろう。	標準
V	英作文	自由英作文	(A)(B)のテーマのどちらかに関して、大問I～IVの長文で言及されている見解やことがらを取り上げ、自分の意見を英文で論じる問題。解答欄のスペースから判断して、140～200語で書くのが適当だろう。2018年度以降、「自分の意見と異なる見解に言及し、それを批判すること」という指示がある。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

- 読解総合の問題では例年、合計で 2,500 語程度の英文を読まなければならないが、それほど読みにくい英文ではないので、標準レベルの難度で論理展開が明確な英文を選び、パラグラフごとに内容を整理しながら手早く正確に内容を読み取る訓練をしておけば十分に対応できるだろう。なお、空所補充の設問で確実に正解を得るためには、語彙や表現に関する知識をマスターしておくことに加え、日頃から論理展開を意識して英文を読むことを心がける必要がある。
- 大問IVの和文を与えられた上での内容一致は、普段から同じテーマの英文を読む際に、それぞれの論者がどういう立場にあるのか、主張の根拠は何か、各論者におけるそれらの対応関係はどうなっているかを確認するようにしたい。また、過去問を解く際には、2012年度以降の形式では、あるテーマについて対立する考えの英文が出題されているので、これを読む際に、主張や根拠の対立関係を意識するようにしておくといだろう。
- 自由英作文に関しては、意見論述型を演習しておく必要がある。長く書くほどケアレスミスが多くなりがちなので、無理に語数を増やそうとするのではなく、自分が正しく使える表現を用いて、内容に破綻のない英文を書けるようにすること。身近な内容に関する出題が多いので、身の回りのニュースなどに興味を持って、自分の意見を形成し、その理由を正確に英語で表現できるようにしておきたい。また、自分とは異なる見解にも目を向け、それに対してどのような反論が可能かを考えることや、様々な社会問題に対する具体的解決策を考えておくことも重要である。なお、引用の仕方については3年度連続して例が示されていないので、2023年度以前の問題を見て、正しい表記方法について確認しておくといだろう。